

令和５年度 自己評価表【目標】

鳥取県立鳥取緑風高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1 基本的生活習慣の確立による、生徒の自己管理能力の育成 2 夢と希望を持ち、世界を広げていくことのできる生徒の育成 3 社会のルールやマナーを遵守する生徒の育成 4 基礎・基本の重視による、生徒一人一人の学力の向上 5 生徒が将来の生き方を意識する進路指導の充実 6 自律性を伴った、生徒の自主性の育成 7 自然環境について考え、行動することのできる生徒の育成	今年度の重点目標	1 基本的な生活習慣の定着を促す。 2 生徒が主体的に取り組む授業づくり、深い学びにつながる授業づくりに取り組む。 3 個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実に努める。 4 視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実に努める。
-------------------	---	----------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (1)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
基本的生活習慣の定着	生活の自律	○学校では時間を守ることができる生徒が増えているが、決められた時間に行動できない生徒も、まだ若干数いる。 ○教室等の環境整備は、普段の清掃などによりきれいに保たれている。 ○食堂のゴミ出しの状況等をみると、ごみの分別等環境配慮行動に対する意識は、まだ十分とは言えない。 ○定期的な生徒個人ロッカー内の点検と整理指導により、教材管理が身に付きつつある。 ○昨年度は、就寝時刻が0時以降の生徒が約71%、一方、スマホやゲーム等を一日5時間以上使用している生徒が約43%で、まだまだ改善の余地がある。 ○昨年度のむし歯の保有率は48%、むし歯の治療率が16%であった。毎年少しずつ治療がすすみ、むし歯の保有者が減少傾向にある。 ○「週1回以上、歯を磨かないで寝ることがある」と回答した生徒が約30%いる。	○規則正しい生活を送ることができている。 ○基本的生活習慣（挨拶・マナー等）について考え、行動できている。 ○環境美化に関心を持ち、身の周りの整理整頓や清掃ができている。 ○自分自身の健康管理に関心を持ち、健康状態の向上に努めることができる。 ○就寝時刻が0時以降の生徒が60%以下、スマホやゲーム等を一日5時間以上使用している生徒が30%以下となっている。 ○う歯保有者50%以下を継続し、治療率20%以上を目指す。	○積極的な日常の声かけや挨拶、丁寧な面談を通してコミュニケーションの具体例（対人関係における挨拶や対話）を提示し、習慣づけに努める。 ○「緑チャレ」と連動し、基本的生活習慣の指導を行う。 ○身の周りの整理整頓、ごみの分別の徹底を指導し、環境美化に努める。 ○ライフスタイル調査による生活実態の的確な把握と分析を行う。 ○むし歯の治療について、担任をはじめとする全教職員で個別指導や声かけを繰り返し行う。	○「時間を守り、自ら挨拶をするよう心がけている」と回答した生徒の割合は81.4%である。 ○「周りの人への思いやりの心を持ち、円滑な人間関係を築くよう心がけている」と回答した生徒の割合は86.8%である。 ○「緑チャレ」を機会として基本的生活習慣の改善が見られた。 ○ライフスタイル調査の結果、起床・就寝時刻が遅い生徒は、スマホ・ゲームが主な原因であった。 ○全校のう歯（むし歯）保有率は43%で、目標を達成した。また、今年度は新たに歯と口の健康に関する講演会を企画し、治療率は昨年度から上昇した。	B	○日常的な挨拶や声かけを継続し、対人スキル獲得の一助とする。 ○各教室のごみ箱等を各階一か所に集約した。ゴミの分別の徹底を引き続き指導する。 ○「緑チャレ」を利用し、ロッカーの管理について引き続き指導する。 ○就寝前の歯みがきを含め、睡眠・スマホ等基本的生活習慣の定着が不十分な部分について指導を継続する。
生徒が目標を持ち主体的に取り組む授業づくり	個に応じた学力の向上	○「授業は工夫されていてわかりやすい」と回答した生徒の割合は93.9%、「教職員の丁寧な対応」については95.3%と高い数値となっている。 ○課外指導に継続的に取り組み、力をつけてきている生徒もいる。 ○「まなトレ」の取り組みは、年次によって様々で、低年次については検討を要するが、互いに教えあう姿も見られた。また、学び直しや進路実現にも活用している。 ○昨年度の年間単位修得率は定時制が77.5%、通信制は78.9%でどちらも目標以上となっている。 ○多くの授業でICTを活用しているが、生徒のスキルの向上には至っていない。	○「授業は工夫されていてわかりやすい」と回答した生徒の割合75%以上が継続している。 ○社会生活を営むために必要な基礎学力を身につけている。 ○選択した科目を欠席しない環境を醸成する。その結果、定時制生徒の単位修得率は65%以上、通信制生徒の単位修得率は70%以上が継続している。 ○進路を意識して学習に取り組む生徒がさらに増え、基礎学力を高め、卒業予定生においては上級学校の入学試験や就職試験に対応できる学力を身につけている。	○普段の授業から主体的な学びや対話的な活動や探究活動のきっかけにつながる内容を取り入れた授業の工夫・充実を図る。また、公開授業を促進し、より一層の工夫を図る。 ○「まなトレ」により基礎学力の向上を図り、生徒が将来の生き方を見つめる一助となるように努める。 ○ICTのさらなる活用により、生徒個別の状況に応じた学習指導を充実させる。 ○生徒個々の進路希望を把握し、課外指導や個々に合った模試を計画的に活用するよう、学年、部課程と連携し支援する。	○「授業は満足できる」の割合が89.4%であった。また、参観授業において気づいた点などPC上に記録を残し、共有できるようにした。 ○「まなトレ」では自分の進路を考え、自分に必要な知識や学力を身につけようと取り組めていた。 ○年間6回の担任による生徒面談を実施した。 ○ICTを活用した授業の頻度は高まり、活用技術も向上している。 ○定時制の前期単位修得率は78.6%、通信制の前期単位修得率は83.9%であり、目標以上の達成である。 ○各年次や部課程と連携し、進学希望者には指導・助言を行い、就職希望者にはCA面談やまなトレ等でコミュニケーション能力や基礎学力の向上を図った。通信制では、国公立大学進学希望者に個別に指導を行った。	B	○社会生活に必要とされる基礎学力の養成、さらに進路実現に向けての学力向上を継続する。 ○ICT活用、オンライン教育システムを推進し、引き続き授業改善に努める。 ○公開・研究授業を企画して授業研究活動を促進し、気づいた点などPC上に記録を残して共有できるようにする。これらをととして、生徒が学びやすい授業づくりをさらに進める。 ○今後も各部課程、各年次と連携しながら個別に丁寧な進路指導を継続する。
		○特別支援教育支援員のサポートにより、生徒が安心して授業に取り組めている。 ○資格取得を促し、「まなトレ」を活用して準備の学習を行っているが、受験する生徒は多くない。 ○「本校での高校生活に満足している」と回答した生徒の割合は、92.6%で目標以上の達成率であった。 ○外部講師による授業やガイダンス・体験活動は、生徒の意欲向上につながっている。 ○進路に関する講演会、講習会などは生徒の進路意識を喚起する良い機会となっているが、意識の継続、具体的な行動には繋がっていない。	○各種資格試験、検定等の合格を目標に、積極的に学習に取り組む、卒業までに1人が1受検している。 ○「高校生活に全体的に満足している」と感じている生徒の割合が、75%以上が継続している。 ○生徒が積極的に講演会や体験活動に参加し、学んだことを意識しながら進路実現に向けた生活を送っている。	○特別支援教育支援員による授業のサポートや学生教育ボランティア（緑風ソシオ）による学習指導補助の充実を図り、学習意欲の向上につなげる。 ○「勉強+α」を推進する（α：資格取得等）。各種資格試験、検定の案内を行い、適性のある生徒に対して個別に受検を勧め、受検者には個別の支援を行うなどきめ細かい指導を行う。 ○各種資格・検定試験の一覧を提示し、担任等の面談の中で受検を意識した助言を行う。 ○生徒の実態や課題に即した講演内容、講師の選定や、体験活動の推奨を行う。	○特別支援教育支援員、緑風ソシオの活躍により落ち着いた生活や学習意欲の向上につながった。 ○資格取得等についていろいろな機会に案内をし、昼間部卒業生における1種類以上の資格・検定等合格者の割合は2割強であった。 ○「高校生活に全体的に満足している」と感じている生徒の割合は9割を超えている。 ○体験型ガイダンスは卒業予定生のみならず、低年次生のオープンキャンパス参加に繋がった。 ○進路指導については9割を超える生徒が高い満足度を得ている。また「進路について考えている・将来働いてみたい仕事がある」の割合が7割以上である。	B	○各種検定について、資格取得の意義を分かりやすく生徒に伝え、「緑チャレ」などで積極的な受験を奨励するとともに受験へ向けた支援を行う。 ○引き続き、生徒の実態や課題に即した外部講師による講演や体験活動を行う。 ○生徒が自信を持てるような場面で前向きな評価を与え、落ち着いた生活や学習意欲の向上につなげる。 ○生徒の漠然とした進路目標が具体的に、その実現に向けた行動に繋がるよう、指導する教員側へのサポート材料を増やす。

個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実	生徒の内面を理解しそれを生かした指導	○生徒への日常的な声かけや継続した担任による面談（3回以上）、ＳＣ面談などを行い、生徒理解に役立っている。 ○各部課程・学年ごとの生徒情報交換と、ＳＣ・ＳＳＷ連絡会を定期的に実施している。また、個別支援ケースについては対応策を職員間で協議し、共通理解をはかり実践に生かしている。 ○「専門医による相談会」を実施し医療機関との連携をはかり、一定の成果が表れている。 ○「質問や相談に丁寧に応じてくれる」と回答した生徒の割合が95.3％であり、目標値を上回っている。	○情報を共有しながら発達課題に応じた具体的かつ現実的な支援を行い、生徒が自立へと努力している。 ○前年度に比べて不登校（年間30日以上欠席）であった生徒の人数が減少している。 ○「質問や相談に丁寧に応じてくれる」と感じる生徒の割合80％以上が継続している。	○毎日の声掛けや年間に6回（面接指導4回・指名登校指導2回）の生徒面談を実施し、教職員間の情報交換を頻繁に行って生徒理解に努め、きめ細かい指導を行う。 ○担任などによる個人面接や様々な場面をとらえ、生徒一人ひとりとのかかわりを大切にした指導に努める。 ○教育相談係会を隔週、ＳＣ・ＳＳＷ連絡会を毎月持つことによって、個々の生徒に対する具体的な支援策を策定し実行に移していく。 ○校内支援委員会を活用した組織的な支援により、各部課程をこえた情報共有と個別支援ケースの進捗状況を把握・検討する。 ○医療機関などの各種外部専門機関と連携した支援体制を充実させる。	○生徒全員への声掛けを日常とし、困り感アンケートやＳＣ面談を実施し、生徒理解に努めた。 ＳＣ・ＳＳＷ連絡会と各部課程・学年ごとの生徒情報交換を定期的に実施し、個別支援ケースについて職員間で対応策を協議し、共通理解を図った。 ○12月末までで20日以上欠席した定時制生徒が1年生では増加したが、全体では昨年より4名減少した。今後も1年生への重点的な対策が必要である。 ○「専門医による相談会」を実施し、医療機関との連携を図り、一定の成果が見られた。 ○「質問や相談に丁寧に応じてくれる」と回答した生徒の割合が93％であり、目標を上回った。	A	○ＳＣ・ＳＳＷ連絡会などで今後も定期的に部課程間で情報共有する機会を持つようにし、校内外の連携を密にしている。 ○不登校傾向の生徒については、引き続き関係職員と連携をとりながら改善に取組むとともに早い段階で家庭との連携を行う。 ○「個別の教育支援計画」を本人の自己理解にも活用し次年度に確実に引き継ぐなど、校内の支援体制を整え、継続した取組みとする。
	自立をめざす生徒指導	○多くの生徒が挨拶を心がけ、お互いを思いやって過ごす雰囲気醸成されてきている。 ○「ルールやマナーを意識した行動をとろうと心がけている」と回答した生徒の割合は96％であり、目標値を上回っている。 ○様々な進路学習の機会や面談等をとおし、進路目標が明確になる生徒は増加傾向にある。 ○就職活動をする生徒の大半は、様々な進路行事への出席や面談を通じて自己理解を深め、就労への意識も高めている。 ○日常生活における小さな目標を記した「チャレンジシート」の活用は一定の役割を果たしつつも全体には及んでいない。	○社会で通用する行動・ルールやマナーの向上の指導をとおして、お互いを思いやる心や自律性、自主性が身についている。 ○「ルールやマナーを意識した行動をとるよう心掛けている」と回答した生徒の割合75％以上が継続している。 ○身近にある差別やいじめに気づき、その解消に向けて取り組んでいる。 ○通級指導などの個別指導において、自分のことを理解し自分らしく生きていけるような力を身につけている。 ○生徒の進路意識が高まり、自分の進路目標に向け積極的に行動している。 ○生徒はチャレンジシートを活用し、自分の課題を意識し改善しようと努力している。	○生徒一人ひとりとのかかわりを大切に声かけや挨拶を交わし、他者に配慮した言動などができるよう努める。 ○生徒個々に応じた校内の支援体制を確立するとともに、外部機関と連携しながら進路実現に向けた機会をつくる。 ○人権教育ＬＨＲ、人権学習講演会等を充実させることにより、人権意識を高める。 ○通級指導や就労体験等をとおして、社会生活を送る上で必要な力を育成する。 ○規範意識が身につくよう、ルールやマナーについて適宜指導する。 ○いじめアンケートを活用し、いじめのみならず、問題行動等の未然防止、早期発見に努める。 ○進路ガイダンス、進路ＬＨＲ、ＣＡ面談などで自己理解を深めさせ、キャリア設計能力や社会性を育成する。 ○進路指導部による進学・就職の定期面談を実施したり、進路ＬＨＲ等での進路学習の機会を増やし、生徒に進路について継続的に考えさせる。 ○担任のみならず多くの職員が担当として個別に生徒と関わり、スモールチャレンジを推進する。	○多くの生徒が挨拶を心がけ、お互いを思いやって過ごす雰囲気が醸成されてきており、人権意識もＬＨＲや講演会を通じて高まっている。 ○「私は、ルールやマナーを意識した行動をとるよう心がけている」と回答した生徒の割合は90.8％であった。 ○通級指導において自らの課題を理解し、向き合う力が育つとともに、職場見学会やインターンシップへの個別支援や職員間の連携により、将来に向けた生き方に意識を持ち進路決定につなげることができた。 ○担任や進路指導部による継続的な面談は、生徒の自己理解の促進やキャリア設計能力、社会性の育成の一助となった。 ○チャレンジシートの活用及び面談は定着しているとは言えないが、様々な立場の職員が生徒にアプローチするスタイルの端緒を開くことはできた。	B	○引き続き粘り強く、全教職員で生徒への声掛けや個々の背景に応じた指導をする。 ○生徒・保護者の希望や生徒実態把握による職員間の連携を図りながら通級指導を継続する。 ○早期に進路指導部と教育相談部のみならず、卒業予定生担任間の連携も密にする。 ○各年次と連携しながら、特に卒業予定生以外の進路意識を喚起する取り組みを検討する。 ○生徒のチャレンジ精神を育む校内風土作りを引き続き検討する。
視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実	体験活動の活用	○「ＴＥＡＳⅡ」（鳥取県版環境管理システム）の環境改善目標は概ね達成できている。 ○緑風祭や球技大会など、生徒会執行部が中心となり企画・運営ができています。 ○定通総体、県高等学校生徒会連盟大会では、男女バレーボール部と卓球、バドミントンの個人が優勝、入賞し、多くが全国大会に出場した。 ○アルバイト経験を通し、社会性を身につけていく生徒が多い。また、インターンシップに参加した生徒は、自信を得たり、自分の課題を認識するなど一定の成果を得ている。	○環境目標を達成するための具体的実践を全校で進め、省資源・省エネルギー・ＳＤＧｓに関する意識が高まっている。 ○授業や学級活動、生徒会活動、学校行事等に生徒が積極的に関わっている。 ○アルバイトやインターンシップなどの社会体験に取り組み、進路選択の一助とするとともに、コミュニケーション能力、自己肯定感が高まる生徒が増えている。 ○卒業までにアルバイトやインターンシップなどの社会体験に取り組んだ生徒の割合が75％以上となっている。	○「ＴＥＡＳⅡ」を適切に運用しながら、環境美化に配慮した実践、エコ活動の推進などを、教職員および生徒が率先して行う。 ○学校行事や「緑チャレ」をとおして、部活動、生徒会の活性化をはかる。 ○委員会の活動内容を示し、生徒会執行部が中心となって主体的に企画運営できるように支援する。 ○担任や教育相談部と連携して情報を共有しながら、生徒個々の状況に合わせ、アルバイト、インターンシップのいずれかを原則2年次終了までに体験するよう推進する。	○環境ＬＨＲの中でＳＤＧｓについても説明を行い、環境に対する意識の向上をはかった。 ○「学校は清掃が行き届いており、気持ちの良い学習環境となっている」と回答した生徒は86.1％である。 ○生徒会執行部が中心となり、緑風祭を実施できた。 ○卒業予定生の9割以上が在学中インターンシップ、アルバイト等に取り組んだ。アルバイト就業事業やインターンシップに参加した低年次生も、職業観や自己理解、自己肯定感を高めた。	B	○環境に配慮した行動に教職員が率先して取り組みながら、ＳＤＧｓについてさまざまな場面で生徒に説明していく。 ○「緑チャレ」の月間目標を生徒の目につきやすいところに掲示し、取り組み意識を高める。 ○緑風祭や学校行事等の中で、生徒同士が主体的に話し合ったり、協力し合ったりする場面をつくる。 ○引き続きアルバイト、インターンシップ等の積極的な活用を推進する。
	集団への適応力の育成	○生徒面接前にhyper-QU研修を行い、結果をクラス経営に活用している。また、ユニバーサルデザインを学習環境や授業に取入れ、「わかりやすい授業」の展開に努めている。 ○ＳＣによる1、2年生対象定期面接実施、ＳＳＷの校外機関への訪問・連携、担任の家庭訪問同行等を実施し、生徒状況等の把握に努めている。 ○「安心して通える学校だ」と回答した生徒の割合が92.6％であり、昨年度を上回っている。 ○問題行動等に対し、保護者連絡等をこまめに行い、担任のみにならず、学年団、生活指導部、教育相談部、養護教諭、ＳＣ、ＳＳＷが連携し、連携を密にしながら生徒指導に取り組んでいる。	○年2回実施するhyper-QUにおいて、強い孤立感や孤独感が示唆されている生徒の数に顕著な改善がみられる。 ○「鳥取緑風高校は、安心して通える学校だ」と回答する生徒の割合80％以上が継続している。	○hyper-QUや生徒実態把握の結果を生徒面接やクラス経営に積極的に活用する。 ○緑風ハートフルなどの活動をとおして他者とのかわり合い、人間関係づくりを促す。 ○担任とＳＣ、ＳＳＷとの協力によって家庭訪問や校外専門機関との連携を強化し、生徒の人間関係作りを支援する。 ○ひきこもり傾向の生徒に対しても、定期的な家庭訪問等の適切なかわりを粘り強く継続する。	○ユニバーサルデザインを学習環境に取り入れることに努め、様々な場面で連携し、保護者の協力を得ながら生徒達の活動が円滑に行えるよう支援した。 ○緑風ハートフルに参加した生徒の様子では他の生徒と協働する様子が見られ、効果があった。 ○定時制では担任による生徒面談の前にhyper-QU研修を行い、結果をクラス経営に活用するとともに生徒状況の把握と課題の改善に努めた。その結果、学校生活不満足群が改善された。 ○「安心して通える学校」と回答した生徒の割合が91％であり、目標を上回った。	B	○授業や教室のユニバーサルデザイン化に努め、居心地の良い学習環境の整備を目指す。 ○緑風ハートフルの必要な生徒に対して、声かけ等に工夫する。 ○校内外で連携を取りながら情報共有し、生徒個々と集団の両側面から学校生活への適応が図れるようチームでの指導・支援を継続する。保護者懇談、生徒面接などにもＳＣ・ＳＳＷ・教育相談部も加わり、担任との連携をさらに密にする。 ○日頃の声掛け、挨拶等を通して生徒の実態把握に努める。転編入生や長欠の生徒については、学期開始後できるだけ早期に担任・ＳＣ面談を実施する。
業務改善の取組	時間外勤務時間の縮減	○毎月開催している衛生委員会での結果を報告し、校内掲示板に掲載している。 ○時間外業務時間月45時間以上の者はいない。 ○会議は1時間以内に終わるよう取り組んでいる。 ○学校行事等により長時間勤務となる時期がある。	○業務の削減、簡素化、見直しを行い、業務が効率的に行われる。 ○担当内での情報が共有され、年次有給休暇を取得しやすい環境となる。	○衛生委員会での結果を校内掲示板で全職員に周知する。 ○管理職は、日ごろから教職員の業務の状況と、給与勤怠システムによる勤務状況を把握し、時間外業務の多い職員には声かけを行う。 ○会議の効率化、業務の精選を意識した行動を心がける。 ○長期休業中、考查中の年休取得の呼びかけを行う。	○衛生委員会での結果を校内掲示板上に報告した。 ○時間外業務が月平均20時間を超える職員はいない。しかし、分掌によって多忙な時期がある。 ○会議の平均実施時間は1時間以内である。 ○長期休業中、考查中の年休取得の呼びかけを行っている。	A	○校内掲示板の活用促進により、会議の報告や連絡事項の削減に役立てる。 ○必要に応じた勤務時間の割り振りや時間外業務の多い教職員への声かけにより勤務時間の意識の向上をはかる。 ○チームワークを醸成し風通しの良い、相談しやすい雰囲気をつくる。

※ 緑風ハートフル:校内外での人間関係づくりのための体験活動

※ まなトレ:高校までの学習内容の学び直しのための教材

※ 緑チャレ:緑風チャレンジ12(強化月間)

評価基準 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(60%程度) D:まだ不十分(40%程度) E:目標・方策の見直し(30%以下)